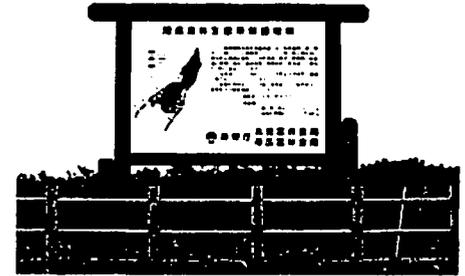


『知床森林生態系保護地域』の看板設置される！

北見・帯広両営林支局は、知床を訪れる人々に、知床の大自然（原生的森林）の大切さを知ってもらうため、知床岬の駐車場付近に「知床森林生態系保護地域」の看板を設置しました。

これは、今年4月25日付で知床横断道路以東の国有林が、全国で最大規模の生態系保護地域に指定され、その趣旨を理解してもらうことを目的に設置されたものです。大きさは高さ3.4m・幅3.7mと大型ですが、周囲の景観を損なわないようカラマツ材を使用し、配色にも気配りした「看板」となっています。



(知床岬に設置された看板)

第7回「森林レク・in知床」実施

9月28日、第7回「森林レクリエーション・in知床」“紅葉の知床を肌で感じてみませんか！”と題し、穏やかな秋空の下、ボンホロ沼周辺の自然観察教育林で、森林浴・トレッキングを行いました。

今回は、これまでと違い既設の道もなく、全くの自然の中で行うイベントであったことから、参加者の少ないことが懸念されましたが、暗に相違してキャンセル待ちも出る程の応募があり、広域の市町村から32名の参加がありました。

現地に着くと、センター職員から山歩きのアドバイス・森林浴の楽しみ方などの説明を受けた後、ようやく捜し出した一本のケモノ道をトレッキングしながら、身の丈程のクマイ笹に足をとられたり、顔を撫でられたり苦行の連続で奥地に進みました。

途中、ヒグマが冬眠用として試し掘りした穴や蟻の巣を掘り返した跡などを観察しながら目的地のボンホロ沼に無事到着。

昼食後、ボンホロ沼周辺の植物を調べたり、森林施業跡地の現在の姿について、見聞を広めるなど多くの収穫があったようです。

また、下山途中では、たわわに実ったコクワの実を、両手に抱えきれないほど採るなどし、一日を有意義に過ごしていました。



(ボンホロ沼周辺の林内を散策する参加者)

『知床は今』

今年は、例年になく温かい日が続いて紅葉前線も遅れ気味でしたが、10月9日知床連山にも初雪が舞い、山頂付近は薄く雪化粧をし山麓は紅葉の真っ盛りと、24色のクレパスも全て活躍する程の彩色で飾られ、知床を訪れる旅人の歓喜を誘っています。

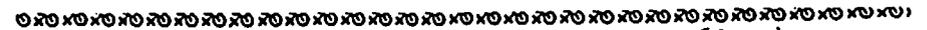


(自然観察教育林の中にある「無名の滝」)

森林センターでは、秋に追い立てられるように幌別川流域に今年設定された「自然観察教育林」の整備の準備に入っており、紅葉の木の間を縫って観察歩道作設のルートを選定しています。

このエリアの中を流れる幌別川には、4つの大きな無名の滝があり、名称はまだ決まっていますが、職員一同皆さんに「親しまれるような名称を」と知恵を絞っているところです。

読者の皆さん、良い名称・アイデアがありましたらご一報下さい。



オリジナル「スタンプ」完成

知床森林センター設立以来、知床国有林PR用としての「オリジナルなスタンプ」の製作を考えていましたが、この程2種類のスタンプが完成しました。

早速9月のイベントに使用したところ、大変評判も良く今後のイベントなどでも、活躍してくれるものと期待しています。



(クレストコスミレと、センター・知床半島を囲んだスタンプ)

「知床横断道路各」ひと足先に冬眠

知床半島を横断し、その岬からは北方領土の一つ国後島を望めることで有名な、R334号線が例年通り冬季間の通行止になりました。

今後は、来年5月下旬までの半年間、動物専用の路として、知床に生息する動物たちに開放されます



(園遊路で遊ぶキタキツネ)